

8月15日67回目の終戦記念日

1945年8月15日正午、NHKラジオで昭和天皇が肉声で日本がポツダム宣言を受諾し、戦争に負けたことを全国に放送で流しました。この日を事実上太平洋戦争が集結した日として「終戦の日」あるいは、「終戦記念日」としています。

17日間の熱狂

連日、マスメディアが熱狂した、オリンピックが17日間の幕を閉じました。毎日深夜から早朝から絶叫するアナウンサーに呆れていた人もいます。「日本、日本、連呼、がんばれ！！」という叫びとともにメダルを取った時など、普段冷静な人もテレビに向かって、おもわず拳を突き上げたとおもいます。授賞式の国旗掲揚の時ジーンとした人もいます。

平和の祭典オリンピック？

『平和の祭典』といわれるオリンピックですが。過去にはヒトラーが国家意識高揚のため活用し、モスクワオリンピックでは西側、その反対にロサンゼルスオリンピックでは東側の国々が参加をしませんでした。オリンピックは国家意識を煽るのにたいへん都合がいいのです。マスコミあげてメダル獲得に大げさな報道をしたり、自国の領土を主張したり、それぞれの思惑がスポーツの対決に合わせて展開されました。

戦争を始めるときは、様々な大義名分が用意され、国家の利害を貫徹するため戦争行為を正当化するため理由がつけられます。この理由はすべて労働者、市民利益を守るのではなく権力者の利益を守るため用意されるのです。しかし、多くの人たちはそのことに気がつきません。私たちは、常に冷静な判断をしなければなりません。判断をするには過去から学ぶことが一番です。

どのような理由があろうと日本人だけでも約190万人が犠牲になった戦争に大儀などあろうはずはありません。愛国心は大事だと思います。しかし権力者は時に愛国心を利用し国のために死ねともいいます。

どんな国を作るかは私たちが決めるのです。

すべての戦で犠牲になった方々のご冥福をお祈りします。合唱